

## 璧を完うす

①趙の惠文王嘗て楚の和氏の璧を得たり。

以前は  
た

② 秦の昭王十五城を以つて之に易へんことを請ふ。  
は  
の  
都  
市  
と  
交  
換  
し  
よう  
とい  
う  
提案  
した

案した  
て  
請ふ。

③ 裕を  
与へ えたくない  
ざらん | と  
欲すれ 思う  
ば、ならば  
秦の | が  
強き | 強い  
を と  
二

与へ	与え
ん	よう
と欲すれ	思う
ば、	ならば
欺か	騙さ
るるを	れる

④ 蘭相如曰はく、  
「願はくは璧を奉じて往かん。」  
「言うことにはどうか私が捧げ持つて秦に行かせて下さい。」

⑤ 都市が手に  
城に入らなけれ  
ば、則ち私には  
臣請ふ  
璧を完うしもとのままの状態  
てで  
帰らん。」とましよう

既に到着した。秦王は都市交換する気持ち無なかつた。

⑦ 相如 は  
乃ち そこで  
給き 欺い  
て  
璧を奪つた  
取る。

⑧ 怒髪 が  
冠を突き刺した  
指す。

（9）柱下のもとの  
に却立して後ずさりし  
曰はく、言うことには  
「臣私の  
が  
頭は壁と俱に碎けん。共に碎けるだろう」  
と。

⑩ 従者をにして壁を懐き持たせて間行して先に帰らしめ

自身  
身は命を秦に  
自身  
命の昭王の  
命令  
で  
格助

待つ。  
待つて  
いた。

は蘭相如を  
賢者であると  
蘭相如をせた  
として之を帰らしむ。

断定